TCシンポジウム2022

K38

製品・サポート情報の
プロジェクトマネジメントを学ぶ、指導する
執筆工程（実践編）

～標準制作工程検討ワーキンググループ公開討論～

前半：学校教育との差分
後半：パラグラフライティングへのリライト

2022年10月5日（水）

パネリスト
黒田　聡　標準制作工程検討ワーキンググループ主査
若山　陽介　標準制作工程検討ワーキンググループメンバー
標準制作工程検討ワーキンググループメンバー

活動組織

標準制作工程検討ワーキンググループとは

TC協会標準規格策定委員会（委員長：徳田直樹）傘下のワーキンググループ。前身は、2009～2010年に活動していたDITAの「取り組み検討ワーキンググループ」である。2011年に「トピック指向取り組み検討WG」として再スタート、2019年からは「標準制作工程検討ワーキンググループ」と名称を変え、チェックリストや評価・検証技術の細部の検討、人材育成への落とし込みを推進している（主査：黒田 聡、副主査：碓井 直樹）。

企画意図

- 8月セッションでは、「テクニカルライティング」と、高等教育で扱われている「パラグラフライティング」との違いを確認することで、下記を再認識した。
  - 教育課程で共有されている情報と、業務を通じて蓄積してきたノウハウとの違いを明らかにし、共有する
  - 新しい教育を受けた世代を指導するときに、前提知識として認識しておく点を明らかにし、共有する
  - 「テクニカルライティング」の特徴、暗黙知を明文化する

- 10月のセッションでは、8月セッションのアンケートをもとに、下記についてさらに掘り下げていく。
  - 初等・中等教育で共有されている情報との差分を確認
  - パラグラフライティングの適用箇所について例題をもとに確認